



【特集】ご存じですか？『ヤングケアラー』

家族を介護する10代、全国に約3万7千人！

皆さん、『ヤングケアラー』と呼ばれる通学や仕事をしながら家族を介護している若者達をご存じでしょうか？総務省の2017年の就業構造基本調査では、家族を介護している15～29歳の若者が全国に約21万人いると推計されていました。しかし、多くの若者が、「**家族のことだから**」と一人で抱え込んでしまうこともあり、問題が表面化しにくいという実態がありました。最近公表された独立行政法人・統計センター（東京都）の統計結果によると、15歳～19歳の子どもに限ると、2017年の時点で全国に**約3万7千人**のヤングケアラーがいることがわかりました。

私たちスマイル☆ケアケアのメンバーは、この数字を見たときに、“え?!こんなにいるの?!?”と驚きを隠せず、ヤングケアラーの問題を顕在化させる必要性を痛感しました。そして、必要とされている支援を社会全体で考えていきたいと思えます。そこで、今月から数回に分けて、「ヤングケアラー」について特集でお届けします。

知ろう！ヤングケアラーの実態

ヤングケアラーの支援に取り組む一般社団法人日本ケアラー連盟は、ヤングケアラーの状況を類型化しています。

- ◆ 障害や病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている
- ◆ 家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている
- ◆ 障害や病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている
- ◆ 目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている
- ◆ 日本語が第一言語でない家族や障害のある家族のために通訳をしている
- ◆ 家計を支えるために労働をして、障害や病気のある家族を助けている
- ◆ アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している
- ◆ がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている
- ◆ 障害や病気のある家族の身のまわりの世話をしている
- ◆ 障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている



緊急！ ヤングケアラー ケース紹介

ケア当時、かなさんはお父様、お母様と都内在住、ご両親の地元は遠方で、ご高齢の祖父母やご親戚の協力も難しく、学生ながらかなさんがケアを担うことになりました。

闘病初期の通院治療には、お母様が冷静に医師の話を聞けるようかなさんが付き添い、入院後は毎日のように公共交通機関を利用して1時間の病院へ通ってサポートをしました。かなさんが来ることを喜んでくれる**お母様に応えたい一方で**かなさんも**ギリギリ**で、お母様の治療上の重大な局面に、かなさん**自身が腎盂炎で高熱**を出してしまったことがありました。その頃大学でお世話になっていた先生が話を聞いて下さり「お母さんや家族のためだから自分がリラックスできる時間もちゃんと取りなさい。自分の時間を持つことに罪悪感を持たないで」と言われ楽になったといいます。そのころのかなさんは、**普通の大学生らしい生活にさえ罪悪感**があったそうです。

最後にヤングケアラーの支援に必要なことを伺うと「**気にかけている**」ことを伝えること、**繋がり続けること**。同世代に共有はしにくく孤立しがち。だれかが、ケアラーの気持ちがあふさぎ込んでないか、と気をかけてくれる・声をかけてくれることだけでもうれしい、と感じるそうです。

かなさんのご経験、しっかり受け止めてヤングケアラーに必要な支援を広げていきたいと思えます。

“10代のケア”体験者に聞きました

データ：

ケアラー：かなさん（25歳・社会人）
ケア当時、19歳・大学2年生
ケア対象の方：お母様（50代・癌
通院治療→入院・介護保険利用）
共同ケアラー：お父様（会社員・50代）

編集後記

皆さま、今月のケアケア通信はいかがでしたでしょうか？

ヤングケアラーインタビューでは、とても大切な思い出をお聞きました。同年代の友達には伝わらなくて話すのをあきらめた、というかなさん。あとから同世代にも意外とケアラーがいた、とわかったそうです。孤立しがちなヤングケアラー。より細やかな支援が必要だと実感しました。

次号は**5月11日**発行です。お見逃しなく～～～(〇)/

【連絡先】スマイル☆ケアケア事務局
E-mail: smilecarecare@gmail.com